

申10号「高崎・上越線 CTC 化に伴う業務の見直しに

ピックアップ

に関する検証申し入れ」団体交渉終了！！

3月30日「高崎・上越線 CTC 化に伴う業務の見直し」に基づき、高崎線および上越線の運転取り扱い業務の一部が高崎輸送指令へ集約されました。提案時における CTC 化の主旨として、①効率的な業務執行体制②運行管理の一元化を行うことによりタイムリーな情報提供、遅延時の早期割日が可能となる、列車の在線位置が把握できるため質の高いお客さま案内が可能となるなどのことが挙げられました。しかし、線路閉鎖作業時の現場における業務実態、輸送指令と現場間の連携や情報提供の方法など、業務実態は提案時の趣旨とかけ離れていると言わざるをえません。

私たちは、異常時における輸送サービス品質のレベルアップとともに、労働条件を担保し、働きかいたある職場と仕事を創りだしていくことが必要と考え、申10号「高崎・上越線 CTC 化に伴う業務の見直しに関する検証申し入れ」の団体交渉を11月25日に行い、全ての項目が終了しました。特徴点については下記の通りです。

1. 運転指導グループによる運転関係監査の内容について明らかにすること。

会社回答：駅運転実地指導については、運転取扱業務に関わる職場において、駅と支社双方で事故防止に向けた消化等を図る目的で実施するものである。

(組合) 目的・内容を教えて頂きたい。

(会社) 2019年度から運転事故防止へ向けて行っている。上期は渋川駅で行っている。下期も各運転取り扱い駅で開催する予定である。運転取扱ルールや運転資料の確認、駅・支社との意見交換の場である。指摘が目的ではない。開催する場合は駅に指導内容等事前に連絡をしている。

7. 施策実施後の高崎輸送指令における扱い誤りの件数、内容について明らかにするとともに、取り扱い誤りに対する具体的対策を行うこと。

①9月12日新前橋駅における732M抑止解除失念について明らかにすること。

②抑止解除失念について再発防止に向けた具体的対策を行うこと。

③入区順序誤りにより旅客列車が遅延した事象について件数を明らかにすること。

④入区順序誤りにより旅客列車が遅延した事象について具体的対策を行うこと。

会社回答：732Mの関係は作業輻輳により、抑止解除の時期が遅れたものである。また、入出区順序に変更が発生した場合は、駅と調整を行い、関係信号機の制御を行っているところである。

(組合) この間、抑止解除失念のような事象が多発しているが、日報に記載がないがどう言うことか？

(会社) システム的問題もあり、システム改修を行って来た。作業輻輳と言う理由もあり、日報からは除外されている部分もある。

(組合) 同じ様な事象でも駅ではアウト、指令ではマルの様な受け止めになってしまう。指令に対して不信感がつもの。今後のシステム改修計画を窓口を示して貰いたい。

(会社) 事象については安全企画室が判断を行っている。各事象の内容を確認しないと一概には言えない。システム改修計画については出せるか出せないかを確認する。

JRひがし労は検証活動を継続して行きます！！